

新型コロナウイルス感染症入院受入体制について

1 入院受入体制について

入院受入病床数

約440床



即応可能な病床数

約320床

入院患者数（12月9日 現在）

約290床

※市外患者を含む

しかし、実際には

- 医療従事者の陽性判明による新規受入の停止・制限
- 患者の状態（要介護等）に起因する看護師等の人員不足
- 他疾患の患者受入のための病床の確保

等の要因により、**体制上の病床数と即応可能な病床数との間に乖離**がある。

入院受入体制の
さらなる整備が必要

2 入院受入体制の確保に向けた考え方

1. 高齢者（要介護者等）の受入体制の整備

- ・ 現状、入院受入病床の多くを要介護等の高齢者が埋めていることから、看護師等の人手（マンパワー）が想定以上にかかるため、受入人数に制限を設けざるを得ない状況。
- ・ 高齢者の場合、新型コロナウイルスの退院基準を満たした後も、基礎疾患やADL低下等の要因により、継続入院が必要な場合が多い。（入院受入病院の病床を長期的に埋め続ける状況が発生）



- ・ 退院基準を満たした高齢者の転院を受け入れる病院（後方支援病院）を準備し、スムーズに転院させることにより、入院受入医療機関での滞留を解消し、急性期患者に注力できる体制を整備。
- ・ 看護師等の不足を補うための人的支援についても、検討の必要あり。

2. 医療機関全体での支援体制の確保

- ・ 既存の入院受入医療機関における対応には限界があるため、市内の医療機関全体で新型コロナウイルス感染症の入院受入体制を支える体制が必要。

3 具体的な取組

1. 市内医療機関への緊急要請

札幌市長と関係団体（札幌市医師会等）の連名で、市内病院・有床診療所に**緊急要請を実施**。

<緊急要請事項>

1. 自院において陽性患者が発生した場合に備えた入院体制の確保
2. 入院受入体制のさらなる拡充（以下①～③いずれかによる協力の要請）
 - ① 陽性患者（特に高齢者）の入院受入
 - ② 退院基準を満たした高齢者等の入院受入
 - ③ 入院受入病院等に対する人的支援

※このほか、発熱患者等の救急搬送受入についても要請

2. 看護師等の派遣要請

全国知事会等を通じて、人手が不足している医療機関等への看護師の派遣を要請。